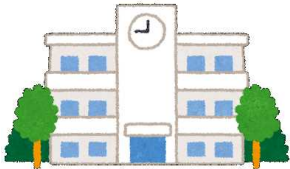


教育センターだより

令和元年度 第4号

黒部市教育センター



中学校の閉校と統合に思うこと

桜井中学校 校長 中 村 靖

先日、20年ほど前に宇奈月中学校で受けもっていた生徒から同級会の案内が届きました。その文面には「懐かしい時を共に過ごしたい」とありました。中学校の閉校があつての企画であり、母校の閉校に寂しさを感じているのでしよう。

実は私も宇奈月中学校の卒業であり、閉校には寂しい思いをしています。出身の小学校も10数年前に閉校となり、今ではその校舎もありません。自分が育ってきた学校がなくなることで、自分の子ども時代がより遠くなったような気がしています。今回、黒部市内の4中学校が閉校することで、同じような思いをもつ人が多いことのでしよう。

しかし、私は閉校への寂しさと同時に、新しい中学校2校の誕生には期待もしています。それは、私自身の経験によるものです。私は中学生時代に学校統合に似た経験をしました。昭和50年、宇奈月中学校が誕生した時、私は3年生でした。それまでは、当時の宇奈月町の中学生は、地区によって2つの中学校に分かれて通っていました。それが一町一中学校にするということで、一緒の学校に通うことになったのです。現在の校舎もその時に建てられました。

4月当初は様々な混乱があつたと記憶していますが、私としては、一緒になってよかったと思っています。その理由は、まず、気の合う仲間が増えたことです。それまでのメンバーとは違う性格や能力、考え方、人間性の人たちと出会うのですから、自分にとってピタリとくる友達に出会うチャンスが増えます。(へ続く)

私にとっては、新たに出会った友達から刺激を受けたり、切磋琢磨することは楽しいことでした。

また、この時に、他校の文化、価値観に触れる経験もしました。通常なら転校生にでもならない限りは、他の学校の文化に直接触れるということはありません。しかし、二つの学校にいた生徒と一緒に生活することになって、集団が持っている雰囲気の違いを肌で感ぜざるを得ませんでした。これは、ちょっとしたカルチャーショックでした。私にとっては、それまでの学校での経験がすべてであり、自分の考え方の基準になっていたのですが、それがいくらか覆されたわけです。自分の経験の狭さを感じる機会となり、貴重な経験になりました。

もちろん、統合によって感じたことは人それぞれでしょう。しかし、私が感じたようなことは、今回の中学校統合でも多くの生徒が感じてくれることではないかと思うのです。

今年度、統合中学校の開校に向けて、4つの中学校では様々な準備を進めてきました。統合する学校同士の生徒の交流もその一つです。合同授業の実施や宿泊学習での交流、合同部活動の実施等を通して、生徒の交流を図ってきました。昨年の夏休み中には、4中学校の1、2年生の代表生徒が「あこや~の」に集まり、統合中学校の生徒会活動について協議もしました。このような交流を通して、心の垣根は少し低くなったように感じています。中学生には、この統合を自分のさらなる成長のチャンスにしていってほしいと願っています。

教師の醍醐味

黒部市立高志野中学校
校長 金山 努

「教師としてのやりがいを感ずる場面は？」と問われ、自分では迷うことなく授業と部活動だと言いつつ、それは授業や部活動の時間そのものより、むしろそこに至るまでのプロセスである。生徒を引き付け、分かりやすい指導を考案する試行錯誤の過程が面白く、本番でも実態に即したアドリブを施せることも教師の醍醐味ではないかと思う。この教材研究すなわち準備が不十分であると、生徒と向き合った時に魅惑的なパフォーマンスなどできるはずがないことは自明の理である。だから可能な限り授業や部活動のシュミレーションすなわち「先を読む」ことを意識してきたつもりである。とは言ったのが現実である。振り返ってみると、自分で良かったと思えた授業が一度だけあった。そのきっかけは中教研学力調査（理科）の

ある問題に遭遇し、大きな衝撃を受けたことにある。記憶は定かではないが、図のようなたんぽぽの茎の位置を問う問題があったと思う。図の傍らに坂村真民の「たんぽぽ魂」の詩が添えられていた。



踏みにもじられても	食いちぎられても
死にもしない	枯れもしない
その根強さ	
そしてつねに	太陽に向かって咲く
その明るさ	
わたしはそれを	わたしの魂とする

一見解答には何も関係しない詩に思えたが、見た瞬間ホッと心が温まる感覚を覚えた。多分問題と対面した生徒たちも同様の感情が芽生えたと思う。初めは、「小さなたんぽぽではあるが、その強靱な生命力を伝えたかったのだろう」と出題者の奥ゆかしさを微笑ましく感じた。しかし、もしかすると「勘違いしがちなたんぽぽの茎の位置を生徒たちに熟考させるために巧妙に仕組まれたヒントかな？」とも思った。

さらにに実はそのような小細工は皆無で、正答・誤答など超越して、野草の逞しさや生き様を見習い、個性豊かに堂々と生きていくことを導き、エールを送って

くる問題に苦戦した生徒は詩を眺めながら心が安まったことと思う。問題を早く解き終えた優秀な生徒も再びこの詩を注視し、詩の意味を洞察したように思う。自分も数年間に渡り作問委員（現在の評価委員）に携わった経験があったが、このような発想そして能力は持ち得なかった。自分は出題者のスケールの大きさと優しさに感服するとともに、次の植物分野の指導で「たんぽぽ魂」の詩を導入した授業形態をイメージし、実践を決意した。

その機会には平成13年度の桜井中学校の通常訪問研修で巡ってきた。実際にグラウンドに咲くたんぽぽの根を土器のよけに完璧に採掘し、地上から見るだけでは想像もつかない根の迫力を五感で捉えさせようと考えた。授業の前週の日曜日男子生徒4名を『たんぽぽ特殊部隊』と命名し、午後1時に召集した。2時間程度で作業は完了するだろうと読んでいたが、グラウンドの固い岩盤、土塊にからみつく屈強なたんぽぽの根の抵抗、そして初夏の強烈な日差しに悪戦苦闘した。パンとソフトクリームでエネルギーをチャージし、額に汗をにじませながら黙々と根を掘り起こした。午後5時50分頃歓声とともにたんぽぽの全身が地上に姿を現した。あたかも雪に埋もれた遭難者を救出したように、真っ黒に日焼けした無邪気な4人の笑顔が夕陽に映えていたのが印象的であった。翌日、採取した根を折らないように細心の注意を払って水洗いし、乾燥させて標本を作成した。主根の長さは91cmにも達していた。

当日、授業前から4名は得意顔でニコニコしていた。誰もが対面した根の長さや逞しさに驚嘆し、たんぽぽに負けない4人の努力を賞賛した。授業の最後に全員で「たんぽぽ魂」を朗読した。授業後に指導主事に大変褒めていただいたが、それは稚拙な授業に対してではなく、生徒と共に創り上げた授業へのねぎらいの言葉であったと思う。嬉しかったのは、その後『たんぽぽ特殊部隊』の4人が大変仲良くなったこと、そしてそのうちの1人が教師になって活躍していることである。実は、さらにこの授業には奇跡的なエピソードがあるのだが、それは秘密にしておきたいと思う。

教師の醍醐味は、調理と同じで、同じメニューでも、具材を変えたりスパイスを効かせたりして、多様な味や色合いを出せることだと確信する。



「他に学ぶ」

～ 内地留学で得られた知見を分かち合う ～

「みんながつながる学級づくりを目指して」

黒部市立荻生小学校 山本 千夏



これまでの自分の学級づくりを振り返ってみると、なかなか思い通りにいかず、「いったいどうすればいいのだろう」と悩むことが多くありました。しかしながら、目の前のことに対処するだけで精一杯だった私は、そうした悩みにきちんと向き合い、深く考える余裕がないまま、日々過ごしてきました。特に近年は、子供同士の間関係に関わる複雑で多様なトラブルが増え、そうしたことへの対応に難しさを感じるようになっていました。

そんな折、内地留学として上越教育大学教職大学院で学級経営について研修する機会に恵まれ、学級づくりの理論や方法論について学ぶことができました。特にアドラー心理学に基づく「クラス会議」は、子供同士のつながりを強めながら、子供たちに自立できる力を付ける手立てとして有効であると分かりました。そして、自身の学級経営の在り方や指導の在り方をしっかりと見直す必要があると強く感じました。

今年度は、学級活動において「クラス会議」に取り組みながら、学級担任として子供たちへの関わり方の見直しを図り、担任も含め子供たちみんなが温かくつながりのある学級づくりを目指してきました。

今、研修を通して学んだことをその後の実践に生かし、子供の成長を実感しているところです。次に示すのは、今後、学級づくりの中で大切にしていきたいと感じていることです。



アルフレッド・アドラー※
出典
donhenley.c.blog.so-net

①子供との信頼関係づくりを第一に考えること

学級における人間関係づくりは、教師と子供との信頼関係（T-C関係）を築くことから始め、その信頼がもとになった教師のリーダーシップにより子供同士（C-C関係）の信頼関係構築を進めていくことがセオリーです。教師が子供との信頼関係を築くためには、子供たち一人一人への関心をもち、認めてもらいたいという子供の気持ちに寄り添いながら、たっぴりと目をかけ手をかけなければならないので、労力がかかります。それでも、子供が「自分を大事にしてくれるこの先生の言うことなら聞こう」と思えるような信頼を得られて、気持ちにゆとりをもって学級経営に取り組むことができると考えれば、手間を惜しまず労力をかけることは十分な価値があると言えます。これからも、子供との信頼関係づくりを第一に考え、「休み時間に一緒に遊んだり話したりすること」「子供の思いや願いをしっかりと聞いて受け止めた上で、こちらの思いや願いを伝えること」「子供のよくない面ばかり見るのではなく、よい面や当たり前でできていることを肯定的に捉え、やる気を引き出す声かけをすること」等を可能なかぎり実践し、それを継続していきたいと思えます。

※アルフレッド・アドラー

(1870年2月7日 - 1937年5月28日) は、オーストリア出身の精神科医、心理学者、社会理論家。Wikipediaより

②教師の指針となる基本的な考え方をもち、表明すること

学級担任をしていると、子供の問題行動への対応等、その場その場で判断を迫られることが多々あります。教師の指導に一貫性がなければ、それは子供に不信感を抱かせることになってしまいます。教育に生かすことのできるアドラー心理学のように、教師が目的論に立って子供を的確に理解し、効果的に働きかけ、目標に向けて育てていくという考え方をもち、その指導が理論に基づいたものになり、自信と一貫性をもって子供たちに接することが可能になると学びました。

「こういう人になってほしい」「こういう学級を目指したい」といった目標や、「こういう場合は叱る」といった判断基準等、教師としての自分の考えをしっかりともち、それを子供たちに表明し、日々語り続けることで、理解と共感を得られるように努めたいと思います。



③子供一人一人の状況や学級の状態を客観的なデータで把握し、学級づくりに生かすこと

学級づくりにクラス会議を取り入れたことで、子供たちに対等に話し合う力や共感的に聞く態度等が身に付いてきたと感じます。こうした教師の主観的な見取りを裏付けたり、見えにくい子供の内面（心）の理解を図ったりするために、「振り返り用紙（クラス会議プログラム）」や「i-check」のような客観的な資料を活用することが有効であると分かりました。客観的データから把握した成果や課題は、今後の学級づくりの道筋を示してくれるので、これからも適宜活用していきたいと思います。

学級集団づくりの目指すところは、人間関係づくりだけではなく、子供たちが自分たちの力によって向上していく自治的集団づくりです。自分たちの生活の問題に気づき、課題を設定し、その解決のために民主的な意思決定をし、行動し、その結果を互いに評価し合いながらさらなる改善と向上を志向する、これが自治的集団です。子供の生きる力を育む自治的集団はどのようにつくるのか、そのための適切な教師の関わりを課題とし、今後もクラス会議を継続するとともに、ソーシャルスキルトレーニングや協同学習等の効果的な活用方法についても学び、積極的に実践しながら、教師と子供、子供と子供がつながる温かな学級づくりに努めたいと思います。

山本先生の報告に見る学級経営と教科経営のつながり

チェック

古い資料になりますが、平成15年3月に国立教育政策研究所 研究企画開発部 企画調整官 研究代表者 河合 久 先生の「客観的な評価をめざすルーブリックの研究開発ポイント」という報告があります。

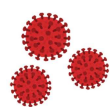
その概要として、以下のようなルーブリックについての説明があります。

ルーブリックは、乗り越えるべきハードルを明確に示すものなので、児童生徒は目指す目標が明確になり、それに向けた努力がしやすくなるというメリットがある。例えば、作文の評価のようなものでもルーブリックが生徒にあらかじめ示されていれば、生徒はどのような点に注意して書かねばならないのか。またその作文が先生に評価され生徒の元に返ってきたときに、どの面が弱くどのようにすれば良い作文になるかが見えてくるのである。これは、生徒や親に対してアカウントビリティ(説明責任)に答えることにもなるのである。

つまりは、評価の判断基準（明確なゴールの段階）を子供たちと共有し、その後には授業を展開していくと教育効果が高いということです。

山本先生の②教師の指針となる基本的な考え方をもち、表明することにある、教師の願いや判断基準をできれば協働的に納得した上で明確にし、語り続けることによって教育効果を高めることは、学級経営でも教科経営でも同じであると言えます。

令和2年度に向けて



まもなく令和2年度が始まります。しかしながら、報道では毎日「新型コロナウイルス」への対応についての情報が流れています。臨時休業による影響を考えながら、「4月の学習をどのようにスタートしたらよいのだろう…」「年度末の学習内容の遅れはどうしたらよいのだろう…」「4月に行われる様々な調査もいつも通り行われるのだろうか…」など、例年以上に疑問や課題が浮かんできます。

直接的な解答にはなりません。先生方が情報を共有することで、少しでも不安を軽減し、子供たちと一緒に新しい年度を元気に迎えたいものです。

○令和2年度の全国学力・学習状況調査に向けて



令和2年度の調査では、いくつかの変更点がマニュアルに記載されています。これまでとは異なることについて、事前に知っておくことで先生方が協力して対応できることもあります。ぜひ、各校においても以下のことについての確認をお願いします。

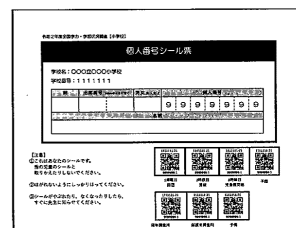
その1 経年変化分析調査及び保護者に対する調査について

この調査は全国の抽出による対象校で実施されます。黒部市は該当しません。しかしながら、この経年調査の結果公表に合わせて、各学校のアンケート内容や追跡すべき内容について検討していくことが大切です。

その2 個人番号シール票について

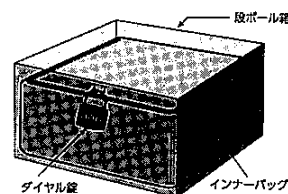
昨年度から始まっているQRコードによる個人番号シール及びシール票に関する説明やQ&Aがマニュアルに記載されています。マニュアルでは、「シールは原則、児童に添付させてください」となっています。

また、個人番号シール票の管理についても明記されています。



その3 配送と回収について

郵送と回収の業者やダイヤル錠などの梱包形態、前日のFAX等についてマニュアルをご確認ください。



その4 個人票について

国語、算数・数学調査は今年度と同様に、知識と活用が一体的に出題されます。したがって、黒部市としての個人票の作成は行いません。

○令和2年度の「わたしたちの黒部市」について



市に古くから残る建物

今年度の3・4年生社会科で使用する「わたしたちの黒部市」は、新学習指導要領の全面実施に合わせて改訂されました。

黒部市の社会科研究委員9名の努力と協力によって、黒部市の歴史や現状に合わせて、より正確な資料を掲載し、子供たちが使いやすいように改善されています。

また、資料性を高めるために、3年生で2ページが新たにカラー化されています。

(次ページへ続く)



安全なまちづくり

3年生の1学期に学習する「1 わたしのまちみんなのまち」の單元における「1 市の様子」で学習する古くから残る建造物のページをカラー化しました。黒部市の特色ある場所をイメージしやすくし、その後の調査活動等につながるように配慮しました。

また、2学期から3学期にかけて学習する「3 暮らしを守る」の單元における「2 事故や事件から暮らしを守る」で学習する安全なまちづくりのページをカラー化しました。子供たちにはぜひ、「なぜカラーになったのか？」について考えることも含めて、安全なまちづくりのための工夫について気付かせていきたいところです。

また、ほとんどの文字をUDフォントで表記し、読みやすさにも配慮しました。

もとのデータは黒部市の学校間共有フォルダに文書データや表計算シートで保存されています。データ上はカラーで保存されている資料もありますので、一斉指導での提示や編集してカラー印刷なども可能です。先生方の創意工夫をさらに加えて、教科書や他の資料と共にぜひご活用ください。

○英会話科における評価について



社会科や理科など、新学習指導要領への対応として、内容や教材が短い年度で変更される教科がいくつかあります。

「英会話科」(5, 6年生の外国語科)は、次年度からの教科書の活用をはじめ、時間数の増加など、顕著な変化のある教科です。黒部市では、次年度からも先生方の授業ができるだけ円滑に進められるように、年間指導計画を教科書に合わせて作成しています。

ただし、単元末や学期末、学年末の評価問題等については記載していません。

これまで行ってきたEnjoy talkingは高学年で学期毎に行い、その結果は、言語の目標である「話すこと(やり取り)」の貴重な評価材となります。もちろん、学期末に行った1回のEnjoy talkingの結果が評定ではありません。ALTと1対1の時は妙に緊張してうまく話せないが、日々の授業であれば目標が達成できる児童もいます。日々の評価にEnjoy talkingの結果を含めて、学期末や年度末の観点別評価へと総括することが大切です。

「話すこと」の評価は、体育の実技と同様に、いわゆるパフォーマンス評価であり、具体的な成果物は録音や録画となります。見返す、聞き返すことの大変さを考えると、指導者は具体的な判断基準(ルーブリック)をもっていることが必要です。また、観点については、会話内容がある程度限定され、覚えることで対応できる内容(prepared)であれば、「知識・技能」の観点として扱い、児童が応答する内容に自由度があり、即興的(impromptu)であれば「思考・判断・表現」の観点として扱うなど、授業者が学習内容と児童の実態を踏まえて評価していくことが大切です。もちろん、通常の授業においても、Enjoy talkingの時間においても、うまく話せないけれども、意欲が見られる児童については、別の観点として肯定的に評価するなど、観点が混在しないようにすることが評価後の適切な指導改善につながります。

児童一人一人を評価するための時間不足についての課題もあります。例えば、ALTは別室で1対1で「話すこと(やり取り)」を2つの観点で評価し、担任や専科教員は教室で「話すこと(発表)」について、子供たち同士の相互評価とともに2つの観点で評価するなど、教師と児童がゴールイメージとルーブリックを共有しながら実践していくことができないでしょうか。英語だけではなく、どの教科も新しい教科書を使って、新しい内容を、新しい進め方で実践する、チャレンジの年度がいよいよスタートします。



夢と目標と計画と…



各学校においては、次年度に向けて学校の教育目標に基づく重点目標やアクションプランの確認、道徳科における重点目標と指導計画とのすり合わせ等、細やかな準備が進められていることと思います。

あるスポーツ指導者の講演で、「夢と目標の違い」について聞いたことがあります。「夢にあるものをプラスすると目標になる」「夢+〇〇=目標」さて、何をプラスすると夢が目標になるのでしょうか。

答えは「数字」です。夢に数字をプラスすると目標になるということでした。「プロ野球選手になる」は夢で、「プロ野球選手になるために、素振りを毎日100回する」や「〇位になる」などの数値が含まれているものを目標と考えているのだそうです。

さて、とやま型学校評価システムが導入され、教育計画に登場するのは、黒部市では平成18年度が最初です。教育の場にアクションプランとして数値目標を設定し、その達成のために逆算的に計画を立て、具体的な実践の効果について評価する流れが10年以上続いています。導入当初は、数値目標を設定することに懐疑的な意見も聞かれましたが、今では「エビデンス」の必要性から先生方の理解も進んでいると考えます。

開始当初のある学校のアクションプランの中に以下のようなものがありました。

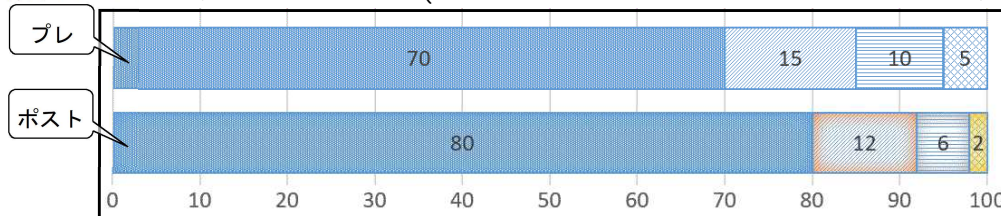
○長距離走の学校平均が、県平均を上回ることを目指す。

この目標は、具体的な記録の数値となって表されるため、達成されたか否かが明確です。また、他の学校では、以下のようなものもあります。

●人前で自信をもって発表することができたと考える子供が90%以上を目指す。

昨今のアクションプランにおいても、児童生徒にアンケートをとり、自己評価の肯定的な意見の増減をもとに、達成されたかどうかを判断している例がたくさん見られます。

そして、以下のような帯グラフのアンケート結果を示しながら、達成できた、と判断し報告する例が多々あります。（「授業では、みんなの前で自信をもって発表していたと思う」）



※記載例
肯定的に回答が85%から92%に増えた。だから、効果があり、目標は達成された…

このデータの読み取りは適切なのでしょうか。そもそも、この質問項目には客観性があるのでしょうか。

前号で少しだけふれた「天井効果」について「富山県中教研会報」No.177(令和2年1月発行)の学力診断サポート事業のコーナーでは「天井効果を示している項目は、情動的価値が少ない」との説明があります。グラフで示した、学校が独自で考えたアンケートの結果は以下のような統計量を示しています。

プレテスト:平均3.5(「よくあてまる」を4として以下、3、2、1として) 標準偏差0.87

平均と標準偏差を足し算すると、4.37となり、設定最高値の4を超え、天井効果を示します。このアンケートはもともと肯定的な方向に偏った質問で、情動的な価値が少ない質問だったということです。教科のテストにおいて、平均点の高すぎるテストでは正しい評価ができないことと同じなのです。ポストの結果はさらに質問としての情動的価値が少なくなってしまうと言えます。もともと信頼性の低いアンケートをもとに結論づけることは危うい考察であると考えます。市販の『心理測定尺度集Ⅰ～Ⅵ』を参考に、標準化されたアンケートをもとにしながら、客観的に実態を把握していきたいものです。

○令和2年度の黒部市教育センターにおける研修会について

以下のように計画しています。ご参加ならびに運営について、ご協力をお願いします。

令和2年度 黒部市教育センター研修事業実施計画(案)

令和2年2月現在

黒部市教育センター

番号	部門	研修会名	種別	開催期日	研修日	主な内容	受講対象者
1	学力・体力・資質向上	市教委・市教セによる学校訪問 通常学校訪問研修・支援型訪問 研修	継	5月～11月	半 日	○授業観察・指導助言、若手教員との面談等	
2		学級運営研修会 (初任者)	継	5月7日 (木)	半 日	○教育長の講話 ○1か月を振り返って	初任教員
3		プログラミング研修会※ (教科実技研+情報教育実技研)	新	7月30日 (木)	半 日	○Scratchを使った算数における効果的な指導の在り方 【講師】	希望教員
4		学力向上研修会※	継	8月4日 (火)	半 日	○菊池省三先生による師範授業及び講演(明峰中学校1学年2学級)	希望教員
5		ICT活用研修会※	新	通年		GIGAスクール構想の計画に則った児童生徒のPC活用に対する研修	各学校へアウトリーチ
6		体力・運動能力向上研修会※	継	7月27日 (月)	半 日	○体育の授業力向上に向けた実技研修	希望教員
7	東京2020 教育プログラム研 修	体力・運動能力向上研修会※ (小学校の部)	新	未定 9小学校	半 日	○小学校 サッカー、水泳、バレーボール等のスキルアップ	小学校児童 担当及び希望教員
8		体力・運動能力向上研修会※ (中学校の部)	新	未定 2中学校 2部活動	半 日	○運動部活動スキルアップ研修会 (アーチェリー、サッカー、バレーボール他)	対象部活動生徒 担当及び希望教員
9	道徳	★道徳講演会※	継	8月26日 (水)	半 日	○道徳科に関する研修 【演題】 【講師】 上越教育大学大学院学長補佐 学長 早川 裕隆 先生	魚津地区教員
10	特別支援 教育	特別支援教育に関する研修会	継	8月18日 (火)	半 日	○特別な支援に関する事例研修と演習 【講師】 東部教育事務所 指導主事	市内教員
11		★生徒指導講演会※	継	8月5日 (水)	半 日	○生徒指導に関する研修 【演題】 【講師】 生徒指導コンサルタント 吉田 順 先生	魚津地区教員
12	生徒指導	生徒指導主事等研修会	継	5月13日 (水)	半 日	○生徒指導主事としての実務と演習、情報交換	生徒指導主事等
				6月19日 (金)	半 日	○カウンセリング研修、夏季休業中の生徒指導、情報交換 【講師】 東部教育事務所 指導主事	
				11月13日 (金)	半 日	○冬季休業中の生徒指導、情報交換	
				2月4日 (木)	半 日	○いじめ問題への対応について、学年末の生徒指導、情報交換 (兼いじめ問題等に関する研修会) 【講師】 東部教育事務所 生活指導担当	
13	いじめ問題等に関する研修会	継	4月14日 (火)	半 日	○黒部市いじめ防止基本方針の確認等 【講師】 黒部市教育委員会 学校教育班長	教頭 生徒指導主事等	
			2月4日 (木)	半 日	○いじめ問題への対応について、学年末の生徒指導、情報交換 (兼生徒指導主事等研修会) 【講師】 東部教育事務所 生活指導主事		
14		★外国語研修会※	継	8月7日 (金)	半 日	○外国語に関する研修会 【演題】 Brush up English 【講師】 岡崎浩幸 先生 黒部市のイングリッシュリーダー	ALT・英会話講師・市教委・ 市教セ・担当者等
15	英会話科カリキュラム部会研修会	継	5月	半 日	○英会話科の内容確認 夏期休業中の研修に向けて	英会話科カリキュラ ム部員等(小中学校 各校1名)	
			6月	半 日	○英会話科の内容確認 夏期休業中の研修に向けて		
			1月	半 日	○年間指導計画の見直し		
16	黒部国際 化教育	企画・運営・評価部会	継	7月	半 日	○英会話科の充実を目指して	教頭
				2月	半 日	○令和2年度のまとめ	
17		帰国児童生徒教育研修会	継	5月下旬	半 日	○代表者会、全体研修会 【講師】 東部教育事務所 指導主事(案)	小中学校長 帰国児童生徒担当教 諭等
18		国際理解教育研修会	継	10月下旬	半 日	○国際理解教育について 【講師】 (未定)	小中学校長 帰国児童生徒担当教 諭等
19	黒部市国際化教育組織部会※	継	5月	半 日	令和2年度の国際化教育についての協議・共通理解等	小・中学校長会長 小・中教研会長 企画・運営・評価部 会部長 カリキュラム部会部 長 市教委・市教セ	
			2月	半 日	○令和2年度の国際化教育についての協議		
20	研究委員 会等	社会科研究委員会	継	5月～11 月	半 日 3回	○「私たちの黒部市」の修正・改訂、教材作成 ○防災教育について	社会科研究委員
理科・情報教育 合同研究委員会		新	5月～11 月	半 日 2回	○プログラミング教育の充実に向けた研修内容の計画 ○ICT活用による授業実践のモデルづくり	理科研究委員 情報教育研究員	
★魚津地区理科自由研究・発明 くふう 参考展		継	7月	半 日 9日間	○令和元年度県出品作品の展示		

★印は魚津地区センター協議会による研修